

令和 6 年度第 2 回まちづくりん部会の協議と関連事項の報告について

1 実施日

令和 7 年 1 月 2 1 日（火）

2 令和 6 年度のまちづくりコーディネーターの活動状況について

(1) 活動報告（※ 2 月 8 日時点）

ア 令和 6 年度実績 1 4 件 ※令和 5 年度実績 1 1 件

関係先	内容	人数	自主活動
自治会	①体制見直しに向けた検討支援（築地） 現状、自治会活動業務が自治会長に集中しており、地区全体で協力して活動を進められる体制とするため、築地地区の定例会での問題提起に協力した。	3	
	②刈谷いっぷく茶屋初陣（刈谷西部） 「お宝さがしウォーキング」にて亀城公園コネクドームに出展し、参加者が銀座商店街の歴史を振り返りながらお茶を楽しむ企画を実施。 ※第 1 回まちコ交流会にて参加者から出た企画を「まちコくらぶカフェ」にて具体化した。	6	○
市	③「まちづくり講座・学習編」（市民協働課） グループワークに市民役として参加	6	
	④ファントレポートの作成（市民協働課） 取材先：SUHARA MUSIC FES	2	
	⑤ファントレポートの作成（市民協働課） 取材先：ふれあい泉田朝市（こどもイベント）	2	
	⑥「協働のまつり場」（市民協働課） 公園緑地課所管の公園等愛護会活動をテーマに、地域全体で公園愛護会活動に取り組むため、広報の仕方について関係団体・関係各課とともに意見交換をした。	3	
	⑦東刈谷地区へのヒアリング（市民協働課） まちづくりステップアップ講座第 2 回「ヒアリング、インタビュー技術」の学びの実践	4	
	⑧小山地区恩田 4 組へのヒアリング（市民協働課） まちづくりステップアップ講座第 2 回「ヒアリング、インタビュー技術」の学びの実践	2	
	⑨認知症サポーターステップアップ講座のファシリテーション（長寿課）	2	

	⑩療-kagaribi-への出展（まちづくり推進課） 明治・大正の刈谷のまちづくりの歴史を辿るトークイベントの実施	4	○
	⑪かりや夢ファンド補助金公開審査会でのまちコくらぶmini（市民協働課） 審議時間にて申請団体及び来場者と交流	3	○
その他 団体	⑫実行委員会のファシリテーション（ワールドスマイルガーデンーツ木）	2	
	⑬いきいきクラブ会長一日研修のファシリテーション（いきいきクラブ）	2	
	⑭「わがまちのつむぎ場」出展（刈谷市民ボランティア活動センター） 参加団体同士の交流	4	○
合計		4 5	4

イ 成果と課題

今年度は「まちコくらぶ」での自主活動が活発化し、活動の幅を広げた他、活動件数についても、コロナ禍以前（令和元年度：13件）を上回った。今後も、「築地自治会の体制見直し検討支援」のような地域活動への伴走支援について、地域との連携を図り進めていく必要がある。

（2）まちコ交流会

ア 第1回

日 時：令和6年6月22日（土）15時15分～17時30分

場 所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ10人、一般7人（市民活動団体、NPO法人、自営業ほか）、
世話人1人、市まちづくり推進課2人 計20人

内 容：第1部 まちコと交流

第2部 参加者同士が知り合う・つながる

イ 第2回

日 時：令和6年11月4日（月・祝）13時30分～16時30分

場 所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ9人、一般8人（NPO法人、学生ほか）、
世話人1人、市まちづくり推進課1人 計19人

内 容：第1部 まちとまちコの交流

第2部 参加者同士が知り合う・つながる

（3）つなぎの学び舎・リカレント まちづくりステップアップ講座

ア 既に「まちづくり活動をしている人（まちコ含む）」が実践に役立つ力を高めるための講座。今年度は4月～3月の全6回開催した。延べ参加者数53人。次年度は、まちづくりコーディネーター養成講座開講予定。

イ 成果と課題

まちコの参加者は多く、満足度も高いため、リカレントとしての役割は果たしていると考えている。その上で、まちコでない人にも受講してもらえるよう、さらなる広報や受講意欲を高めるようなカリキュラムを検討する。

3 共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

【資料 1－2 参照】

共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

【部会の協議方針】

- ・地域活動の活性化に向け、共存・協働により各自治会等で取り組まれるとよいことについて検討する
- ・課題が具体的にになっている地域をモデルに取組を考える

1) ヒアリング日程

日時及び会場：令和 6 年 11 月 30 日（土）19 時～20 時 30 分 小山市民館

対応者：二宮地区長、前野組長

参加者（敬称略）：【まちコ】桑畑、鈴木（2 名）

※5/25 まちづくりステップアップ講座「ヒアリング、インタビュー技術を学ぶ」受講者

【世話人】大野、【市民協働課】和田、【ボランティアネイバーズ】三島、遠山

2) ヒアリング結果は、以下「テーマ 4」のとおり。

※マーカー部分は、「共存・協働により取り組まれるとよいこと」の好事例や種となりうる事柄である。

テーマ 4	組単位の LINE 使用で、地域の情報伝達を円滑に	
	地域密着型の情報伝達の仕組みである回覧板。隣人と顔を合わせる機会にもなりますが、ライフスタイル等が変化する中で回覧に時間がかかったり、情報が留まらないために後でその内容の確認がとれないといった弱点もありました。 組長さんは「デジタル化すればもっと便利になるのでは」と思い調べたところ、LINE を活用している事例を見つけました。組長就任翌月（令和 5 年 5 月）より配信を試みたところ、組内電子回覧率は 1 年間で 8 割超（令和 6 年には 93%）とスムーズに浸透しました。こうしてタイムリーな情報発信で利便性を高める一方、顔合わせの機会の減少を防ぐため、清掃活動を充実する工夫を行っています。	
小山地区 恩田 4 組 基本情報	小山地区は 5,950 世帯（全 24 組）、同地区にある恩田 4 組（全 5 班）は 128 世帯（R6.4.1 時点）。 内、自治会加入 28 世帯、準加入*27 世帯。加入 28 世帯の回覧形態は、電子のみ 23 世帯、紙のみ 2 世帯、両方 3 世帯。 （*準加入＝アパート管理会社の一括加入で、会費納入はするが運営には携わらない。市民だよりのみの配付で回覧版は回さない）。	なじみやすい 地域のタイプ ・組等小さな地域の単位 ・若い役員がいる ・比較的新しい地域

ポイント 1 紙媒体と並行してさっと始めた

回覧板について、「次の人に送るためじっくり見ていられない」「手元にきた時に日付が過ぎている」といった問題を感じたことがあったため、どうせ組長をするなら良いことをしたいと考えて、デジタル化に取り組みました。アプリはお金もかかり大変そうと思い、LINE を活用している事例を参考に、早速 5 月から開始することにしました。

地区長には実施してよいか確認の上、「電子回覧板を始めてみましたが、よかったらどうですか」という呼びかけを回覧につけて案内しました。組内には特に相談しませんでした。お試的な感覚でさっと始めたためか、反対はされませんでした。1 年もかからない内に、対象世帯 28 世帯中 24 世帯が、翌年には 26 世帯の登録が進みました（93%）。しばらく抵抗感があつた高齢の組員が 2 年目になってお子さんの働きかけで加入され、全て電子版になった班もあります。ただし、紙がよい人は、引き続き紙を選択することができるようになっています。

電子版と紙との併用で、組員が自分で選べるようにしたこと、また小さな組であったことでスムーズに進んだと感じています。

ポイント 2

電子回覧板の作成・配信は短時間で可能

電子回覧板は月 2 回の発信（加えて、清掃などのリマインドも行う）で、プロセスは以下の通りです。②表紙づくりの文章作成に少し時間がかかりますが、毎回 30 分に満たない作業時間で、さほど負担に感じていません。

- ① 回覧物を預かったら、自宅でスキャンを行い、PDF データにする。
- ② 表紙づくり ◎スマホでも見やすいよう 12 ポイントの大きな文字にしました
 - (1) 連絡事項（掃除の案内、ゴミ捨てルール等）
 - (2) 回覧資料の目録
- ③表紙も合わせて 1 つのデータに。
- ④google ドライブにアップ
- ⑤LINE メッセージに配信

恩田 4 組で作成した LINE でのメニュー



LINE 開設について（R6.11.30 時点）

- ・LINE 公式アカウント無料プランを利用
- ・LINE ビジネス ID「恩田 4 組」名義で取得
（人数の多い組は、複数アカウントを持つことで送信数制限もクリアできる）
- ・登録情報は組長が管理
- ・一斉送信 200 通/月まで無料
- ・通常の LINE メッセージで個別のやりとりも可能。返信が必要な回覧物も対応できる（上記 200 通に含まれない）
- ・開封状況は確認できる

ポイント 3

顔を合わせる機会づくりも考慮する

電子回覧板の効果として声があがっているのは、「過去の回覧板を見返すことができる」「自分で写真を撮る必要がなくなった」というものです。恩田 4 組の年間予定表も意外に好評でした。また、公園清掃の当日雨天中止について、これまでは現地に行ってみないと実施か中止か分かりませんでした。電子回覧板の運用により、当日朝一斉に中止連絡が可能となった、という例もありました。

一方で、電子化は、隣人同士が顔を合わせる機会が減ることにもなります。自治会は何のためにあるのかと考えた際、人と人とのつながりをつくることはやはり重要と思いました。そこで、LINE 配信と合わせて公園清掃を年 2 回から毎月にし、人と人が会う機会を増やしました。また、側溝の清掃も、道具を取りにきてもらうことにしました。結果的に以前より組員が会うようになり、よく話すようにもなってきました。

ポイント 4

組単位 LINE の汎用性 ～引継ぎ・役割分担・地域サイズが鍵～

次の組長にも引き継ぎが可能のようにマニュアルの作成をしています。ただし、誰もが今のやり方で行えるとは限りません。その場合、「PDF にする」「表紙の文章を書く」といった作業を小分けにして複数人で担えると、1 人の負担が少なくなったり、協力してくれる人の範囲が広がったりすることも考えられます。

公式 LINE の活用範囲は、組単位が管理がしやすいのではないかと感じています。組長と班長の間でやりとりができるのは便利です。また、LINE メッセージで組員と個別のやりとりができるようになっているため、時折組員から「ゴミのネットが破れている」といった連絡が届く場合もあります。組単位だとそれが良いコミュニケーションになっていますが、多数来た場合対応が追いつきません。こうした運用感覚は、地区や組の大きさによって異なるかもしれません。

若い世代の自治会運営参加、まずは声かけしてみてもいい

昨年度から恩田 4 組の組長と小山自治会の会計を担当していますが、会計に声が掛かったのは、年齢が若く、Excel が使えそうだと思われたことだったかもしれません。会社に勤めている年代ですが、「地域のことは誰かがやらなきゃいけないこと」と思っていたので、役を引き受けました。IT やデジタルの専門性が特にあるわけではなく、自分で調べながら進めていきました。

自治会運営に若い人に関わってもらうには、「若いから（引き受けるのは）無理だろう」と固定観念を持たずに、まずは声をかけていくことだと思います。年齢に関わらず、協力的な人はやってくれる可能性はあると思います。

小山地区恩田 4 組組長



部会での意見【テーマ4】

- ・地域で新しい取組みを始める時、色々な人に話をしている内に反対意見が出て来たりするものだが、さらっと始めており、スムーズに進めることができています。
- ・回覧を一齐に電子版に変えたわけではなく、1 ～ 2 年かけて進めている点が良い。
- ・（電子回覧板によって顔を合わせる機会が減った対策として）公園清掃を増やしたことが負担感を与えないよう「ボランティアなのでお時間のある時に気軽に参加してください」と柔らかく呼びかけている。
- ・清掃活動の報告は、感謝の言葉をメインとすることで、読んだ住民が良い気持ちで清掃の記憶を振り返り、今後の清掃にも前向きになれるような工夫がされている。
- ・今川地区は、地区単位で電子回覧板に取り組んでおり、通数が多いため月 5,000 通まで出せる有料版（5,500 円/月）を活用している。
- ・（若い世代の自治会活動参加にアプローチするには）まず声をかけることが重要。若い人が活躍できるような機会を創っていくことが発展につながる。

部会での意見 【全体】

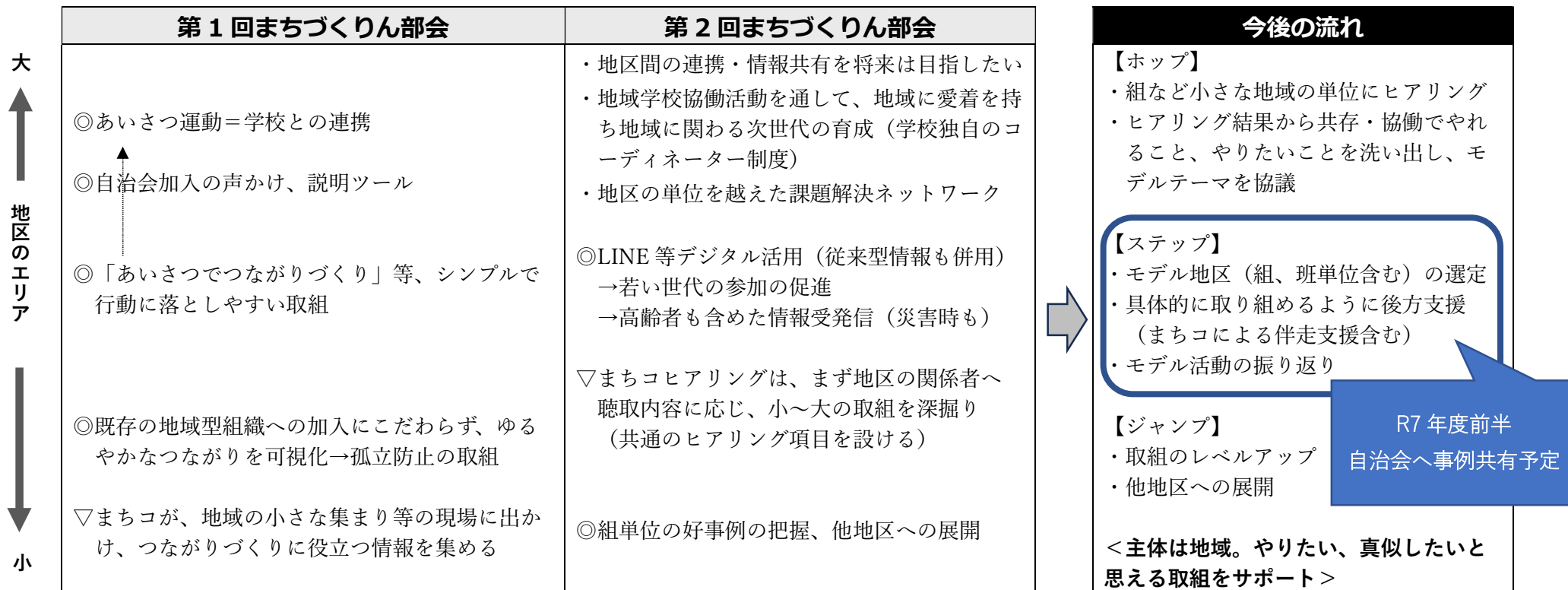
- ・地域でのコミュニケーションの機会を清掃によって持とうとすると、参加者の顔ぶれが同じで、欠席者に対して不満が上がりやすいという側面もある。そのため、負担に感じないコミュニケーションの取り方があるとよい。例えば、班の男性陣で持ち寄り式の飲み会をスタートしてみた。
- ・隣近所の飲み会のような、小さなことからスタートして始めることがよい。
- ・行政で計画が決められても、役員だけではできないと歯がゆく感じられる場面も多い。地域では理解や意識の差が大きいので、まちコが間に入って意思疎通を促すファシリテーションができるとよい。そうした間に立つ人がいると、共働きで忙しく地域活動に参加できないという人もマッチングして、皆で取り組んでいけるようになる。学生にもそれに関わってもらえるようにできるとよい。
- ・コミュニケーションのやり方については、いろいろな人の声を聞きまとめていくとよい。

まちづくりん部会 令和5年度の協議概要と今後について

【部会の協議方針】

- ・地域活動の活性化に向け、共存・協働により各自治会等で取り組まれるとよいことについて検討する
- ・課題が具体的になっている地域をモデルに取組を考える

◎まちづくりのテーマ ▽まちコの活動 ・その他意見



<5つの地域から抽出できそうな「共存・協働のまちづくり」のテーマ>

（交付金有）は、元気な地域応援交付金を活用した地区

小山地区（交付金有）	重原地区（交付金有）	高須地区（交付金有）	築地地区	東刈谷地区
・住民会議で協議（自治会のメリット発信、SNS活用、ボランティア活用 役員業務細分化） ・地域情報発信が活発	・令和5年度住民会議を実施「地域の自主活動活性化」 ・公民館自主サークルを軸とした住民参加の裾野を広げる	・多世代交流による地域活性化 ・ボラ団体（高須のがっこう）を自治会が応援して活性化	・刈谷で一番若い地区 ・地区長が活動に意欲的で（9月まちコ交流会に参加）、まとまりがある地区	・新興住宅地の良い点・問題点を可視化→対策づくり ・イベントを通して顔見知り→地域防災力強化

令和6年度 かりや夢ファンド補助金活用事業の実施状況について

まちづくり活動支援事業補助金の実施状況について (単位:円)

No.	事業名	団体名	事業費	補助申請額	R6年度支払(予定)額 (下線は精算完了)	備考
1	第5回 SUHARA MUSIC FES	SUHARA MUSIC FES実行委員会	1,200,000	200,000	<u>200,000</u>	
2	刈谷ハイウェイオアシス「マジックショー」 ※マジックショー「マスカレードパレス」から変更	手品会	998,000	200,000	93,000	3月事業完了
3	circulation_beans コーヒー豆のかすから“うまれる・つながる・循環する”ま ちのみんなのコミュニティガーデン事業	circulation_beans コーヒーかすの再利用活動	110,000	50,000	26,000	3月事業完了
4	アートと共生社会を繋ぐ ～子どもKARIYA場(BA)～	アジア子ども美術協会(ACHAA)	98,400	49,000	49,000	3月事業完了
5	ふれあい泉田朝市(こどもイベント)	ふれあい泉田朝市会	75,500	37,000	12,000	3月事業完了
6	俳優松原実智子さんの朗読を聞く会	サブロー・ガルテン	50,000	25,000	25,000	当該年度交付 3月事業完了
7	コネクドームでハーブの育成を通じた人々の交流	亀城わっしょいプロジェクト	100,000	50,000	50,000	当該年度交付 3月事業完了
8	保護犬・保護猫チャリティーマルシェ プ・ア・プ	Liaison(リエゾン)	100,000	50,000	50,000	当該年度交付 3月事業完了
9	西三河レインボープライド	西三河レインボーフラッグス	100,000	50,000	50,000	当該年度交付 3月事業完了

NPO法人設立支援事業補助金の実施状況について (単位:円)

No.	事業名	団体名	事業費	補助申請額	R6年度支払(予定)額 (下線は精算完了)	備考
1	NPO法人設立支援事業	NPO法人幸縁	100,000	50,000	50,000	3月事業完了

まちづくりびと支援事業補助金の実施状況について (単位:円)

No.	研修等名	申請者	申請日	補助申請額 (変更申請額)	交付決定額 (変更交付決定額)	支払額
1	2024年度 防災人材育成研修 防災・減災カレッジ	個人	令和6年5月13日	10,000 (9,000)	10,000 (9,000)	9,000
2	2024年度 防災人材育成研修 防災・減災カレッジ	個人	令和6年5月15日	10,000	10,000	10,000
3	2024年度 防災人材育成研修 防災・減災カレッジ	個人	令和6年5月17日	10,000	10,000	10,000
4	2024年度 防災人材育成研修 防災・減災カレッジ	個人	令和6年5月22日	10,000	10,000	10,000
5	2024年度 防災人材育成研修 防災・減災カレッジ	個人	令和6年5月24日	9,100	9,100	9,100
6	2024年度 防災人材育成研修 防災・減災カレッジ	個人	令和6年5月30日	10,000	10,000	10,000
7	2024年度 防災人材育成研修 防災・減災カレッジ	個人	令和6年5月31日	4,800 (4,200)	4,800 (4,200)	4,200

まちづくり活動支援事業補助金（申請額20万円以下）

No.	団体名	事業名	回数	事業目的	事業概要	事業費(円)	補助申請額(円)	得点	補助採択額	採択結果
1	スマイルリンク	子ども食堂にお祭りを届けよう	2	子ども食堂に通う子どもたちの笑顔の創出。 多くの地域の人が、子ども食堂へ参加、通いやすくなる機会の提供。 子ども食堂の活動への認知、理解度の向上によるボランティアや支援者の増加。 本団体と各子ども食堂の運営団体、その他ボランティア団体との連携強化、親睦を深めることによる新たな公益的な事業の創出。	年4回、本団体が、市内の子ども食堂で、子ども食堂に通う子どもたちをメインターゲットとして地域の子どもたちも含めた、お祭りを提供する。 内容は、射的やわなげ、わたがし作りなどの縁日イベントの開催。 50円（又は子ども食堂で食事利用者は無料）で縁日イベントを体験できる安価設定にする。 地域の方々も参加可能とする事で、子ども食堂に足を運ぶことを躊躇していた方々がお祭りの賑わいで参加しやすい雰囲気を作る。	400,000	200,000	19.13	200,000	採択
2	刈谷市赤十字奉仕団	赤十字ハートフェスティバルⅢ ～たいせつな未来のために～	2	赤十字奉仕団の団員としての意識向上と知識のスキルアップ。 刈谷市教育委員会への働きかけ・子どもたちの参加。 各種団体、一般市民の方へ、なお一層の災害への危機感を持ってもらうことと、子どもたちへの地域での支援の啓発と知識の普及。	防災かるたの作成（事前に刈谷市内小学校にお願いし、児童から50音の防災に関する文を募集、厳選、イラストを付け作成→学校配布） 【式典当日】 ・式典・かるた文入選者表彰・講演会 ・子どもたち（参加者）と一緒に防災食を作る 例：耐熱性ビニール袋を使って など ・体験型防災教室・各種防災ブース・防災セミナー	720,000	200,000	18.86	200,000	採択

【参考】申請額5万円以下（11月の第2回夢ファンド部会にて採択を決定したもの）

	サブロー・ガルテン	俳優松原実智子さんの朗読を聞く会	1	子供や市民の方に向けての朗読会を行なうさい、よりお話を理解し、感動を伝えることができるよう、模範的な朗読を聞いて、レベルアップを図る。 お話会ボランティア仲間にも呼びかけ、互いの向上を目指す。	令和7年3月、サブロー・ガルテンが総合文化センターで、会員と読み聞かせボランティア有志を対象に、講師を招いて朗読会を開く。 絵本で、民話「十五の森」ほかの朗読を聞き、人に感動を伝える朗読について話し合う。 後の研鑽のため、録音、録画などの記録を採る。	50,000	25,000	19.38	25,000	採択
	亀城わっしょいプロジェクト	コネクドームでハーブの育成を通した人々の交流	1	現在コネクドーム西側は、砂利が露出し見た目も良くないため、花壇やコンポストなどを設置し、植物育成を通して人と人の交流のきっかけを作りたい。 また、自然と触れ合うことで公園の新たな価値を見出したい。 ※コネクドーム…亀城公園に設置されている、厨房客室を備えたチャレンジBOX。	地元でブレンドハーブを取り扱うShiroとともに、ドーム西側の使い切れていないスペースをハーブガーデンとして活用する。苗を育て自然を育む場所ができれば、気軽に立寄りハーブを愛でる時間が生まれ、人々の交流が生まれる。ハーブガーデンは、育てるだけでなく、食べられたり、匂いをかいだり、触ったり、飲めたり、五感を通して活用できる。見るだけでなく、感じる、食べられる庭としての活用をしていく。 ワークショップでは、パーマカルチャーガーデン（持続可能な農業）やハーブの生態や効能について学ぶ。パーマカルチャーガーデンのスタートができるようなワークショップを数回開催する。	100,000	50,000	17.75	50,000	採択
	Liaison（リエゾン）	保護犬・保護猫チャリティーマルシェ・ア・プ	1	暗く悲しいイメージが強い保護犬、保護猫の問題だが、このマルシェに賛同しご協力いただける保護団体や出展者とともに、マルシェを通じて、人と動物が幸せに暮らしていける提案を楽しく前向きに伝えていきたい。	2025年3月、セントラルパーク（大手公園）にて当チーム主催のチャリティーマルシェを開催予定。 各団体の売り上げは団体の活動費、そして多くの出展者の売り上げの一部は、自身が応援している団体への寄付や物資支援に充てられる。当チームの売り上げは、会場費等の必要経費を引いた金額を各団体に寄付させていただく。 マルシェでは、犬連れの方が多く来場することを想定し、来場者にはペット用の消臭袋を配布、犬のトイレスポットを設置するなど、環境にも配慮していく。	100,000	50,000	18.63	50,000	採択
	西三河レインボーフラッグス	西三河レインボープライド	1	名古屋レインボープライド、東京レインボープライドを参考に、刈谷市を中心とした西三河で生きづらさを抱えている性的少数者などの生きづらさを改善する。	令和7年3月30日（予定）に当会主催で、刈谷市総合文化センターにて当会の対象とする方（対象者・当事者）、またはその支援者に向けて、パネル展示、動画上映により啓蒙したり、相談ブースを設け、対象の方の悩みの声を受け止めたり、ゲストを招いて講演をして頂いたりして、刈谷市内外の市民にアピールすることにより、西三河及びその近辺で支援が必要な方がいることをお知らせするとともに、当事者が少しでも生きやすくする。	100,000	50,000	18.25	50,000	採択

NPO法人設立支援事業補助金

令和6年度は申請なし

令和 6 年度かりや夢ファンド補助金 寄附実績

市民活動支援基金実績

(単位:円)

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度(予定)	
収入	トヨタグループ各社	80,000		80,000		80,000		80,000	
	その他企業	0		0		0		0	
	市民等	213,007		212,715		221,487		200,000	
	ふるさと納税	1,376,022		2,580,000		1,693,000		1,600,000	
	小計(a)	1,589,029		2,872,715		1,994,487		1,880,000	
	市マッチングギフト(b)	1,589,029		2,872,715		1,994,487		1,880,000	
	運用収入額(c)	9,843		24,155		105,629		113,000	
	合計(a)+(b)+(c)	3,187,901		5,769,585		4,094,603		3,873,000	
支出	内容	件数	交付額	件数	交付額	件数	交付額	件数	交付額(予定)
	夢 フ ア ン ド まちづくり活動支援事業補助金	3	600,000	5	825,000	9	604,000	12	900,000
	NPO法人設立支援事業補助金	0	0	1	100,000	1	50,000	0	0
	まちづくりびと支援事業補助金	3	70,000	3	28,500	7	62,300	10	100,000
	笑顔あふれる地域づくり補助金					16	1,889,000	23	11,500,000
	合計	6	670,000	9	953,500	33	2,605,300	45	12,500,000
各年度末の基金額		13,106,837		17,922,922		19,412,225			

- ※ 1 令和 6 年度の交付額は令和 7 年 2 月末時点の状況であり、3 月に開催予定の複数の事業完了後に確定するため、予定額である。
- ※ 2 収入は、令和 4 年度は【前年度 1 月～当該年度 1 2 月分】の金額を計上。令和 5 年度は【前年度 1 2 月～当該年度 1 1 月分】の金額を計上。令和 6 年度は【前年度 1 2 月～当該年度 1 2 月分】の金額を計上。
- ※ 3 令和 4 ～ 7 年度収入のトヨタグループ分は、※ 2 に加えて当該年度末までに予定されている寄附額を計上。
令和 4 年度分より次年度基金へ積むこととしたため、当該年度は小計 (a) に含まれていない。
- ※ 4 「笑顔あふれる地域づくり補助金」は、かりや夢ファンド補助金とは別の補助金。財源（刈谷市市民活動支援基金）が同じであるため、表に記載している。

令和 6 年度 市民協働事業の進捗状況について

	事業名	概要	実施内容	柱※
1	協働のまつり場	市の施策に関して、市民・地域団体・市民活動団体等と行政が意見交換する。	令和 6 年 7 月 1 7 日(水)開催 ・昨年度に引き続き公園等愛護会活動をテーマとし、関係団体(小垣江西高根を元気にする会、プロギング三河、小垣江荒井子ども会)と行政の関係各課(公園緑地課、土木管理課、商工業振興課)で意見交換会を行った。 ・「広報」について「誰に伝えると良いか」「どんな情報を、どんな手段でアプローチしたら良いか」を 2 グループで話し合い、既存の方法だけでなく様々な広報の仕方についてのヒントを得たり、新たな発見に繋がったりすることができた。	5
2	共存・協働のまちづくり講座(学習編)	共存・協働のまちづくりを進めていくため、市民と行政が協働を進めていく上での考え方と、行政の対応の仕方について学ぶ。	令和 6 年 8 月 2 日(金)開催 ・受講者数：入庁 3 年目の職員等 26 人 ・大野裕史氏に、「協働するとはなにか」について市職員の立場や役割を鑑みながら講義をしていただいた後、市職員より「共存・協働心得帳」について説明した。 ・地域づくりコーディネートゲームを使用し、限られた資源や条件を使ってどのように目的に対して物事をコーディネートしていくかを考えるグループワークをした。	1
3	かりや衣浦つながるネット	刈谷市、知立市、高浜市、東浦町間の市民活動情報サイトで、イベントや団体に関する情報の閲覧、参加者やボランティアの募集・申込等ができる。	1 PR イベント(令和 6 年 8 月 2 4 日(土)) 東浦町緒川コミュニティセンターで開催された、東浦町総合ボランティアセンター「なないろ」10 周年特別企画「なないろフェスタ」にて、かりや衣浦つながるネットブースを開設し、「かりや衣浦つながるネット」を紹介するとともに、スタンプラリー及び巨大ガチャガチャ体験を行った。 来場者には、会場内のクイズを回ってスタンプを押してもらい、最後につながるネットにアクセスしてもらった。全てのスタンプを押した方には、巨大ガチャガチャで当たった景品をお渡しした。	2

			2 団体交流会（令和 7 年 2 月 8 日（土）） ・参加者数：49 人 ・東浦町緒川コミュニティセンターにて、「こども」を対象とした活動を行っている方に向けて、「こどもまんなか活動者の集い」を開催した。日本福祉大学 野尻 紀恵氏によるスキルアップ研修の後、各市町参加者による交流会を行った。	
4	わがまちのつむぎ場	市民活動団体、企業、市民等が出会い、つながる場であるボランティア活動見本市を開催する。	令和 6 年 1 2 月 1 日（日）開催 ボランティア団体や企業 25 団体がブースを設け活動を紹介した。各団体が積極的に交流を行い、情報交換が行われたことで、さらなる市民活動活性化のきっかけとなった。 市民協働課及びまちコくらぶも出展し、事業等の PR を行った。	6
5	わがまちのしゃべり場	いろいろな価値観や考え方を持つ人たちが、お互いの想いを聴いたり、話し合ったりする井戸端会議を開催する。	令和 7 年 2 月 8 日（土）開催 ・参加者：30 人 ・今年度は、まちづくり活動に取り組むゲスト 3 団体（なかよし GS、circulation_beans コーヒーかすの再利用活動、輪〜るど・ビレッジ小垣江）を招き、取組事例の共有と、ゲストとともに語り合う場を提供した。	1

※「刈谷市共存・協働のまちづくり推進基本方針」に記載の 6 つの重点課題のこと